資料3

## 第1回部会(H28.6.9)における主な意見 【つる魅力向上部会】

NO	項目	主な意見	対 応
1	イベント実施とその広報について	・盛りだくさんのすばらしいイベントが実施されている。 ・イベント開催にあたり、内容や広報に関して、区としてどのように検討して取り組んでいるのか。	・イベントの実施に際しては、区民ボランティアによる企画運営や、民間イベント会社のノウハウを活かしたプロポーザル方式の業務委託、地域連携による出店など、より多くの参加者・来場者に各イベントを楽しんでいただけるような企画運営に努めている。 ・また、イベント開催の広報においては、報道発表など報道機関との連携や、区広報紙、ホームページ、各地域へのお知らせ、地下鉄や駅構内での音声案内やポスター掲示など、できる限りの取り組みを行った結果、27 年度は各イベントにおいて概ね想定以上の参加者・来場者があった。 ・今後も魅力的なイベントを企画開催するとともに、より多く参加が得られるよう、様々な広報媒体を活用して情報や魅力の発信に努める。

NO	項目	主な意見	対 応
2	高齢者等のイベント参加促進策につい て	・鶴見緑地で開催される区のイベントに参加しやすいよう、バスを運行できないか。	・イベント実施に際して、区内各所の子どもからお年寄りまで、より多くの区民の皆さんがイベントに参加・来場いただき楽しんでもらえるよう、イベントバスの試行的な運行等について検討する。
3	子供たちの種花活動の取組みについて	・地域の公園等で、地域の皆さんと子ども たちが一緒になって、種花活動で育てた花 を植えて育てる機会を拡充してはどうか。	・地域の子どもたちが、地域の種花活動ボランティアと交流しながら、花を植える取組みが広がるよう、ボランティアの方々のご意見をお聞きし、植え込み場所については建設局等と調整を行う。
4	個人情報保護及びコンプライアンス等 の向上にかかる取組み	・個人情報流出事故等について、達成は難 しくても目標値は高く設定しておく必要 があるのではないか。	・個人情報流出事故はあってはならないものであり、今後も事故防止のために定めている「重要管理ポイント」の遵守に努め、発生件数0件をめざす。

## 第1回部会(H28.6.9)における主な意見 【地域コミュニティ・保健福祉部会】

NO	項目	主な意見	対 応
5	イベント・講演会等の区事業実施について	・講演会等の開始時間をバスの時間に合わせてもらいたい。 ・アンケート項目に参加者の地域別項目を集計し、どの地域からの参加者が多いかデータ化すればよい。 ・地域別のアンケートを取ることで、地域単位で関心のある課題も見えてくる。 ・どんな良い講演会等をやってもらっても、出ていくためのバスを出してくれないとお年寄りの方はなかなか参加してくれない。区役所にバスがあればよい。	・講演会等の開始時間は講師の方との調整等も 含め検討する。 ・すでに地域項目を入れている事業もあるが、 入っていない事業についても、アンケートに地 域項目を追加し、データ化していく。 ・事業ごとにバスを運行していくことは、難し いと考えている。イベントの開始時間について は、講師との時間調整もあり、調整は難しいと ころでもあるが、参加していただきやすいよう に検討する。
6	地域有償ボランティア制度の定着	・自立運営ができないと区事業として継続していかなければならず、限界があるのではないか。 地域単位での展開を検討すべきではないか。 ・募集を含めた周知については、広報紙以外の有効な手立てはないのか。	・会員数は少しずつ増加しているものの、自立 運営が難しい状況であるが、介護保険制度など 制度改正がある中、制度のはざまで支援を求め る方は増加すると考えられ、事業の継続は必要 と考える。 区全体のバランスも必要と考えることから、 当面は現在の制度運営とするが、各地域で支援 制度を展開することはよりきめ細やかな配慮 の中行えるものと考えられ、今後、事業進捗や 状況を検証しつつ、制度運営を検討する。 ・募集を含めた周知については、広報紙等も重 要であるが、事業名称等がはいったウエアの作 製など、目に見える周知も工夫する。

NO	項目	主な意見	対 応
7	要援護者等の見守り支援について	・27 年度は「高齢者」を対象に同意確認を行ったが、特に孤立世帯の人たちの同意をどのような形でとって、どうフォローしていくのか。	・区役所で要援護者のリストを整理し、区社協より同意確認を行っている。 同意を得た要援護者については、地域に情報を提供し、普段の見守り活動に活用いただいている。 また、孤立世帯等については、必要に応じて見守り支援ネットワーカーが対応していく。 今後も区役所と区社協とが連携し、地域での見守り手法などについて、支援を行っていく。
8	健康づくりの事業について	・区全体の健康づくりの事業も大事だが、 地域が自分たちでやっていくための支援 づくりも大切。 ・地域への支援については、地域によって は、指導者が高齢化しているのでできない ところもある。	・項目 NO.5 の地域別アンケート集計によって 出される課題等を整理し、地域の意見を聞きな がら支援を実施していく。
9	地域運営の支援について	・地域ごとにアンケートの結果を集計し、地域別にプランを立てていく必要があるのではないか。 ・公金の使途を区 HP だけでなく、地域もそれぞれに公表する必要があるのではないか。	・地域ごとのアンケート結果や意見を聞きながら、地域に応じた支援等を継続していく。 ・公表を義務付けられている NPO 法人以外の 地域に対しても、会計の透明性確保の観点から HP 等で公表するよう働きかけていく。

## 第1回部会(H28.6.9)における主な意見 【こども教育部会】

NO	項目	主な意見	対 応
1 0	目標値と達成状況について	・アウトカムの目標値より、平成 27 年度	・事業の内容については少しでも満足度が上が
		の達成値の方が上回っている。区としてど	るように取り組んだり、広報についても、地域
		ういった点が功を奏していると考えてい	の方にも協力いただきながら取り組んできた
		るか。	ことが浸透してきた成果と考えている。引き続
			き、アンケートも参考に、より多くの方に満足
			いただける内容となるよう取り組んでいく。
	若者の意見聴取について	・中学生、高校生に鶴見区についての意見	・中学生、高校生の意見についてはあらゆる機
		を伺える場を設けてはどうか。	会を捉えて聞いているが、他の機会についても
1 1			場の設定に向けて検討する。
' '		・成人の日の記念のつどいで、区政会議委	・成人の日の記念の集いについて、区政会議委
		員の席を設け、二十歳の誓いのスピーチを	員の参加方法も含めて検討する。
		聞ける機会を設けてはどうか。	
1 2	こどもや保護者への周知について	・イベント告知はもっと学校をまきこんだ	・現在も小・中学校を通じた周知は行っている
		周知をしてはどうか。	が、更に連携を図っていく。また、チラシの色
		・学校で配付するチラシについては紙の色	を目立つものにするなど、手にとってもらいや
		を目立つものにするなど、もっと見てもら	すいよう工夫する。
		うための工夫が必要なのではないか。	

## 第1回部会(H28.6.9)における主な意見 【防犯・防災部会】

NO	項目	主な意見	対 応
		・毎月第2金曜日に行っている「区内一斉 防犯活動」について、毎回同じメンバーが	・各地域の防犯推進委員との会議を開催し、意 見交換を行って、今後の取組みについて検討す
1 3	区内一斉防犯活動について	地域を回っているだけで、マンネリ化しているのではないか。	兄父揆を行うて、ラ後の収組のにういて検討する。
		•	
	防犯事業のアンケートについて	・区民からのアンケートの取り方と業績目	・アンケートの質問内容を工夫し、具体的な取り
		標の評価の方法を再考し、単に区が行う防	組みに反映していく。
1 4		犯事業の認知度を測るのではなく、具体的	
		│な取組みに反映する工夫が必要ではない │	
		か。	
	地域の防災訓練に中学生の参加を	・実際の災害時に大きな力となる中学生	・すでに生徒会やボランティアの参加によっ
		に、地域の防災訓練に参加してもらうな	て、避難誘導訓練等実施している地域もあり、
1 5		ど、現役世代や次世代に力点を移していく	引き続き中学校を通じ、各地域で実施する防災
		ことが大事。	訓練への参加を呼びかけていく。
		・これまでの東日本大震災、熊本地震など	・区役所では昨年度、兵庫県広域防災センター
		の情報を整理し、どういった備蓄が有効な	にて他県の取組みを学び、本年度は被災地熊本
1 6	   地域防災力の向上について	のかなど、地域へ返す工夫を。	県で避難所運営に携わるなど、防災力の向上に
			努めている。知りえた情報については、各地域
			の防災訓練など、様々な機会を捉えて情報提供
			を行っていく。